ソフトウェア文章化作法【会場】（4125023）

相手に伝わる文章を書くための日本語の基礎と考え方のポイントを学びます。日経BP出版『SEとプロマネを極める 仕事が早くなる文章作法』の元となった、JUAS「文章化作法プロジェクト」（2002～2004年）の成果をセミナー化。日本語力に造詣の深い先達の知恵を凝縮しました。グループワークで文章の受け取り方の違いを体感いただきます。

開催日時	2025年9月26日(金) 16:00~17:30会場
JUAS開発分類	ビジネススキル(ビジネス・コミュニケーション)
カテゴリー	事務系スキル ユーザースキル
講師	上田浩樹 氏 （ソフトバンク株式会社、次世代社会インフラ事業推進室　事業推進部 担当部長 ） 日本国際通信、日本テレコム、東京ガストネット、ガステクノロジーを経て、現職はソフトバンク株式会社 次世代社会インフラ事業推進室 事業推進部 担当部長。日本国際通信では電電地球局建設プロジェクト、日本テレコムでは顧客管理システム開発を担当。以後、CIS/B2C領域の開発・運用、クラウド/オープン系インフラ、アーキテクチャ統括、PM/PMOを歴任。著書『ITエンジニアのための伝わる文章力ドリル』（日経BP）に基づき、 "誤解のない、伝わる文章" を実践型として体系化。JUAS講座では、組織先行の構成、一義的な要件表現、読み手起点の表現設計を、豊富な事例と演習で身につけていただきます。対象はエンジニア、企画、プロダクト責任者、PM/PMOなど、「書いて伝える」力をチームの伝達に直結させたい方に最適です。
参加費	ＪＵＡＳ会員(ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利放置1年】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア27）
対象	IS部門・企画部門・IS企業等で仕様書・提案書をご担当者の方
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
知識ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITC相当時間	6.5

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
特になし

情報システム構築において、無駄な工数と費用を掛けないためには、まずは明確な仕様書が必要です。
そのためには、誤解を招かない正確な日本語で仕様書を記述しなければなりません。
しかし、日本語には、主語が明確でなくても何となく相手に伝わる曖昧さがあります。
また、「大量のデータ」といったような量・質などを表すあいまいな表現が存在します。
仕様書などのソフトウェア文章においては、具体性がなくあいまいな表現がトラブルの元になります。
ソフトウェア文書において一番大事なことは、自分の希望・意思を相手に間違いなく伝えることです。
そのためにはどのように記述すればよいのか、日本語の基礎を見直し、日本語の特徴を把握して、ソフトウェア文章を明快に記述する「作法」を演習で実体験していただきながら習得するコースです。

<<カリキュラムのポイント>>
＊オリジナルカリキュラム
日経BP出版『SEとプロマネを極める 仕事が早くなる文章作法』（※）の元となった、JUAS「文章化作法プロジェクト」（2002～2004年）の成果をセミナー化。
日本語力に造詣の深い先達の知恵を凝縮しました。
※旧タイトル『SEを極める仕事に役立つ文章作成術』

＊定評があると同時に、進化し続けています
JUAS独自のオープンセミナーおよび、企業向け研修も含め、 のべ4000人以上の方が受講している、定番コースです。
定番であるだけでなく、必要に応じて例文などをマイナーチェンジ。
常に進化し続けています。

<<内容>>
※内容は変更する場合がございます。
1 オリエンテーション
・この文章読めますか？
2 語彙力確認
・語彙を増やすには？
3 助詞の使い方
4 紛らわしい文章
・羅患文
・多義文
・否定文
5 想像力
6 縮約と要約
7 仕事文 ソフトウェア文章

・仕事文では不要な表現を削り取る
8 報告書の作成
・報告書に求められるもの
9 まとめ
・状況説明
・クイズ

<<受講者の声>>
・日頃何気なく使用していた表現について改めて教えていただくことができた。また、何より楽しく学べた。
・わかりやすくためになる。ふんわりしていることに対してしっかりとした気づきがある。
・語彙を含め、自分の勉強が足りていない部分に気づくことができた。
・文章化の講義は他では受けることができないため、とても充実した時間だったと感じた。
・誤解なく物事を伝える言葉づかいを学ぶことができた。
・日本語の表現の難しさ、伝える難しさを知りながら、それに対するポイントを学ぶことができた。